

## 1. 平成 23 年 9 月中間期決算の特徴点

正味収入保険料は増収しましたが、正味支払保険金が東日本大震災の支払いにより大幅に増加し、さらに台風などの自然災害の発生により、保険引受利益は対前中間期間比 91.1%減益の 70 億円となりました。

また、資産運用は株式市場の低迷や円高の影響により、資産運用粗利益が減益となりました。

その結果、経常利益は対前中間期間比 50.7%減益の 1,389 億円となり、中間純利益も特別利益は増益したものの対前中間期間比 40.8%減益の 1,018 億円となりました。

## 2. 保険引受の概況

### (1) 正味収入保険料

正味収入保険料は全種目で増収となり、合計で対前中間期間比 1.1%増収の 3 兆 5,727 億円となりました。

\* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

### (2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、火災保険が東日本大震災に伴う家計地震保険等の支払いにより対前中間期間に比べ 4 倍に増加したこともあり、全種目合計で対前中間期間比 32.6%増の 2 兆 8,361 億円となりました。

そのため、損害率は 66.0%から 85.4%へ 19.4 ポイントもアップしました。

\* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

### (3) 事業費

「諸手数料及び集金費」は、保険料の増収もあり対前中間期間比 1.2%増の 6,257 億円となりましたが、「保険引受に係る営業費及び一般管理費」が対前中間期間比 4.5%減の 5,727 億円となったため、事業費率は 1.0 ポイントダウンの 33.5%となりました。

### (4) 保険引受利益

保険引受利益は、主力の自動車保険収支の厳しい状況が続いていることに加え、台風などの自然災害への保険金支払いや、その支払いに備えるため支払備金の負担が発生したことにより、対前中間期間比 721 億円 (91.1%)減益の 70 億円となりました。

\* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

### 3. 資産運用の概況

利息及び配当金収入は、円高やゼロ金利政策など厳しい環境が続き、対前中間期間比 7.7%減収の 2,552 億円となりました。

また、株式市場の低迷により、有価証券評価損 637 億円が発生したこともあり、資産運用粗利益は対前中間期間比 755 億円(32.3%)減益の 1,585 億円となりました。

\* 資産運用粗利益 = 資産運用収益 - 資産運用費用

### 4. 資産並びに純資産の概況

総資産は、株価水準が前期末より低下したことによる所有株式時価の低迷や、東日本大震災にかかる保険金支払いによる資金の外部流出により、対前期末比 6.0%減の 27 兆 8,827 億円となりました。

また、純資産については、その他有価証券評価差額金が減少したことから対前期末比 8.3%減の 4 兆 3,733 億円となりました。

### 5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、金融庁長官によって早期是正措置がとられる水準である 200%を各社とも上回っています。

協会加盟会社 (2011年9月30日現在 25社)

あいおいニッセイ同和損保、朝日火災、アニコム損保、イーデザイン損保、エイチ・エス損保、SBI損保、au損保、共栄火災、ジェイアイ、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ24、大同火災、東京海上日動、トーア再保険、日新火災、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

## 損害保険会社の平成23年9月中間期決算概況

